

2022年8月1日 全8頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/8/1号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

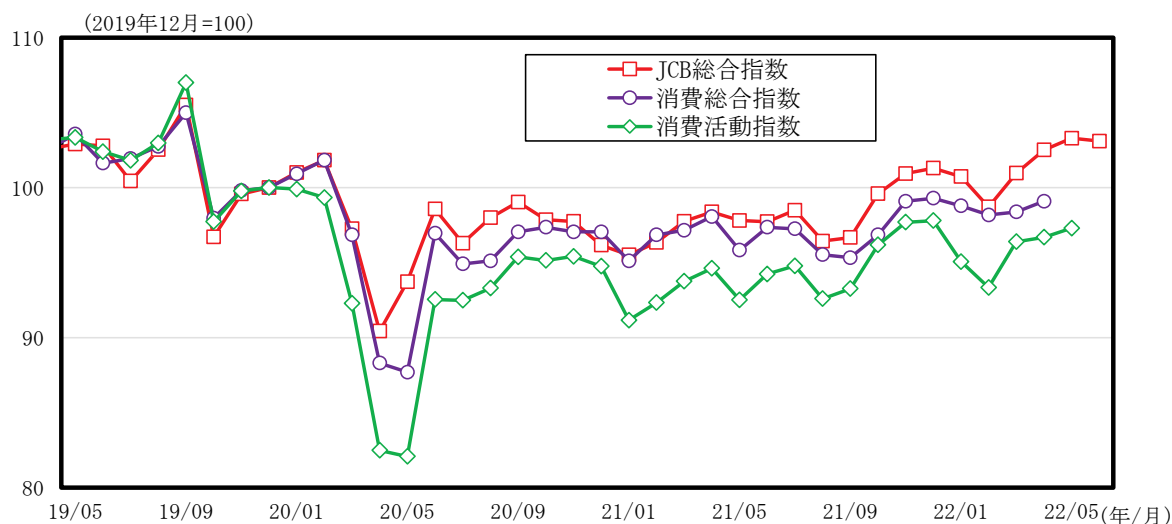
[要約]

- 2022年6月の消費は前月から回復が足踏みしたとみられる。財消費のうち、百貨店大手2社の売上高は感染拡大前の2019年同期比でマイナス幅が拡大し、アパレル各社の売上高はまちまちな結果だった。サービス消費では、新型コロナウイルス感染拡大の落ち着きもあって旅行需要の回復が続いた一方、外食は夜の時間帯の回復が弱いこともあり低調だった。
- 7月の消費は回復の足踏みが続いたとみている。月前半の消費を見ると、百貨店やアパレルでは夏物を中心に売上が伸長した。百貨店大手3社の売上高は2019年同期比で1割減と、いずれもマイナス幅が縮小した。一方サービス関連では、JR東海とJR九州では2019年同期比で新幹線輸送量のマイナス幅が前月から小幅に拡大した。6月下旬に減少基調へと転じた小売店・娯楽施設の入出は7月もその基調が続いており、外食や娯楽などへの支出はこうした動きを反映して前月から伸び悩んだとみられる。

<消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】6月のJCB総合指数¹（大和総研による季節調整値）は前月比▲0.2%であった。財・サービス別に見ると、財は前月から小幅に上昇した一方、サービスは前月から小幅に低下した。

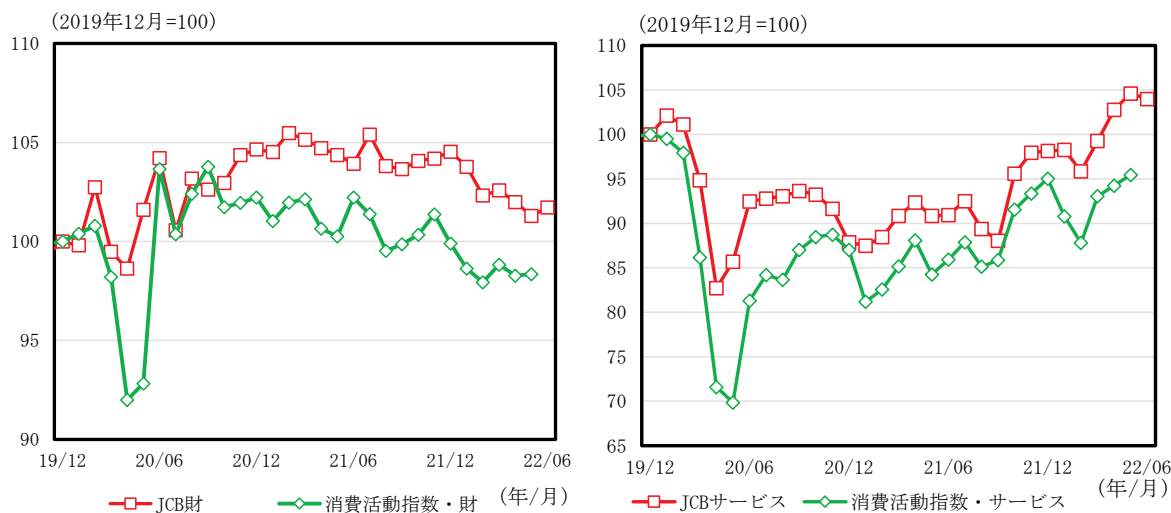
図表1：消費総合指数・消費活動指数・JCB総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

図表2：財・サービス別に見た消費の動き



(注1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI(2020年基準)で実質化。

(注2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

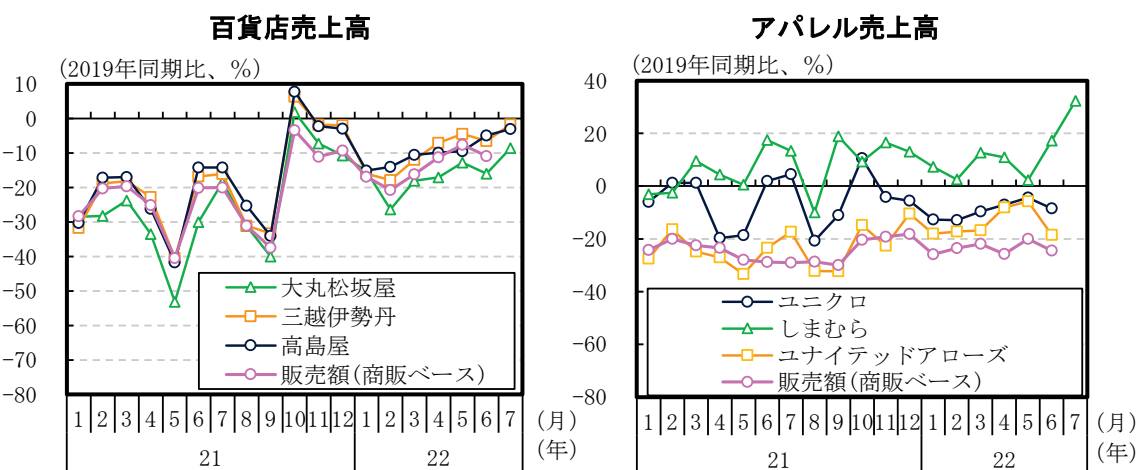
(出所) 日本銀行、内閣府統計、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

¹ JCBグループ会員の中からランダムに抽出された約1,000万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 大手 3 社の 6 月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染拡大前である 2019 年同月比で約 1~2 割減。月前半は外出機会の増加から売上高が伸びたものの、その後は伸び悩んだ。7 月前半は 3 社ともにマイナス幅が縮小し、大丸松坂屋では 2019 年同期比で約 1 割減だった。
- ◆【アパレル】 6 月のアパレル既存店売上高はまちまちな結果。7 月中旬までのしまむらの売上高は 2019 年同期比で+32.3%であった。平年よりも梅雨明けが早く夏物や UV 対策商品が好調だったほか、夏のイベント再開に伴い水着や浴衣も売上を伸ばした。

図表 3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2022年7月は14日まで。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

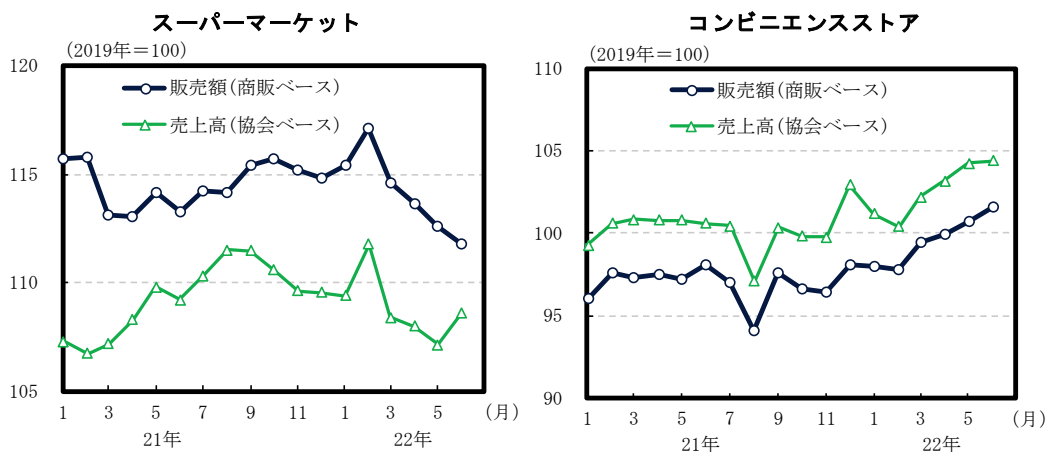
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「衣服・身の回り品卸売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 6 月の売上高は前月比+1.4% (大和総研による季節調整値)。日配食品や一般食品などが全体を押し上げた。
- ◆【コンビニエンスストア】 6 月の売上高は前月比+0.2% (大和総研による季節調整値)。加工食品や非食品などが増加した。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

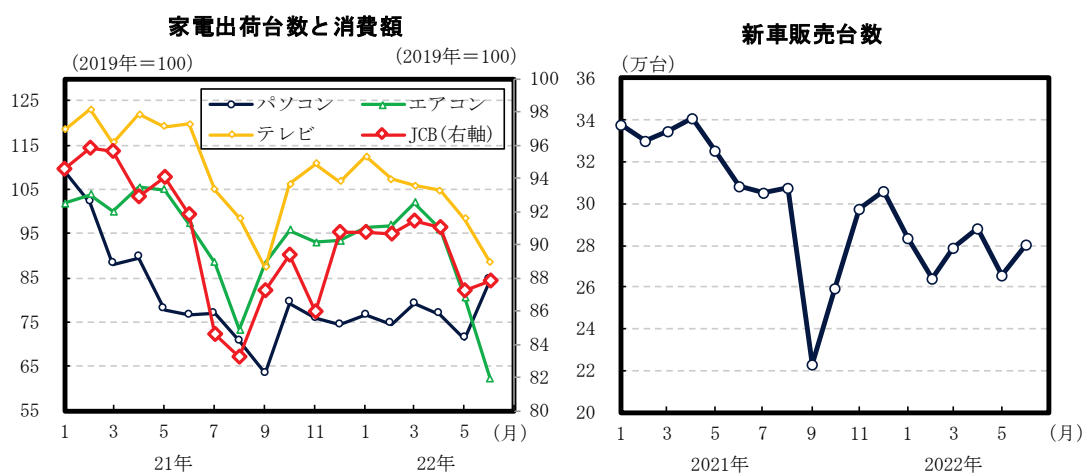


(注) 売上高(協会ベース)は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】 6月の出荷台数はパソコンが前月比+18.7%、エアコンが同▲23.0%、テレビが同▲10.1%（いずれも大和総研による季節調整値）。中国でのロックダウン（都市封鎖）による部品調達難や半導体不足などが影響したとみられる。
- ◆【自動車】 6月の新車販売台数は前月比+5.7%（大和総研による季節調整値）だった。前月からは増加したものの、依然として低水準にとどまった。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



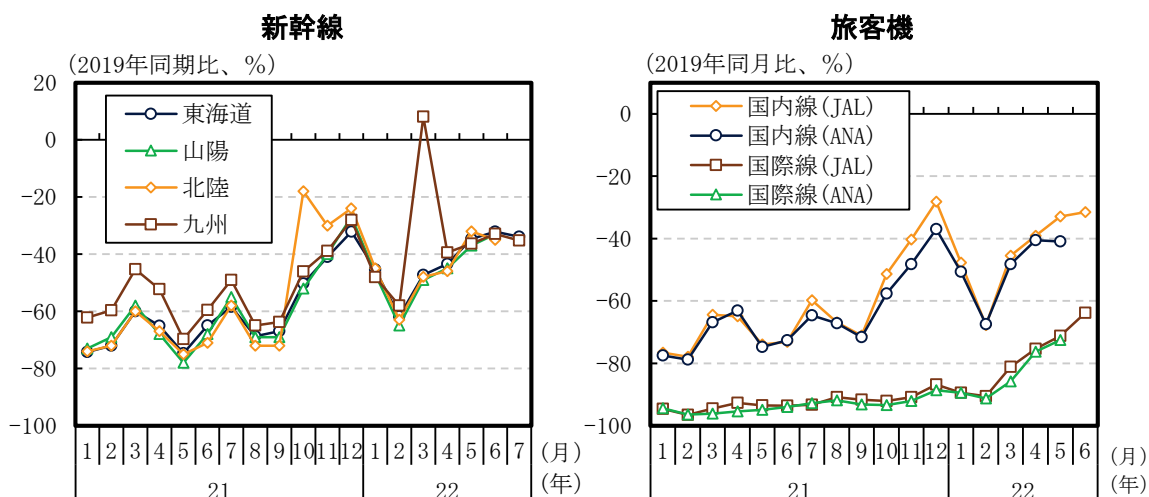
(注) 大和総研による季節調整値。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】 6月の輸送量は2019年同期比で3~4割減。北陸以外では、伸び率のマイナス幅が前月から縮小。7月前半は、東海と九州の輸送量のマイナス幅が5カ月ぶりに小幅に拡大した。
- ◆【旅客機】 6月のJALの国内線輸送量は2019年同月比で約3割減。国際線は同6割減程度と、低水準ながらも回復傾向が続いた。8月以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、航空各社は一部路線の減便率引き上げを予定している。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況

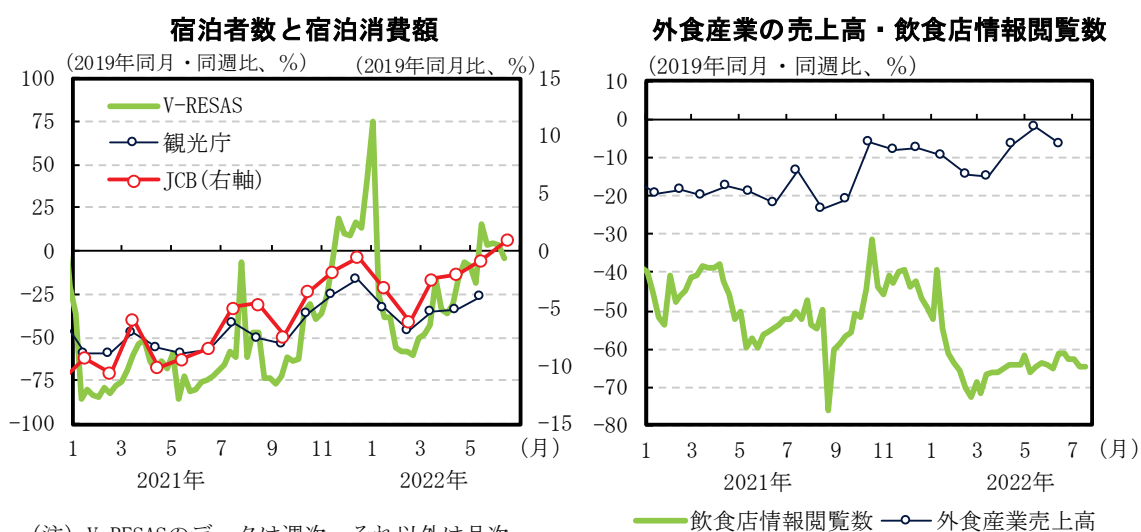


(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。2022年7月の東海は20日まで、九州は26日まで。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 5月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は2019年同月比▲26%と、4月からマイナス幅は縮小。感染拡大が落ち着いたこともあって旅行需要の回復が継続した。JCB消費NOW（宿泊）（大和総研による季節調整値）で見ると、6月もその傾向が続き、2019年同月比でプラス圏に入った。
- ◆【外食】 6月の外食産業の売上高は2019年同月比▲6%と3カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。夜の時間帯の回復が弱いこともあり低調だった。人出が6月下旬に減少基調へと転じたことを反映するように、飲食店情報閲覧数は6月下旬から7月前半にかけてマイナス幅が拡大した。

図表7：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



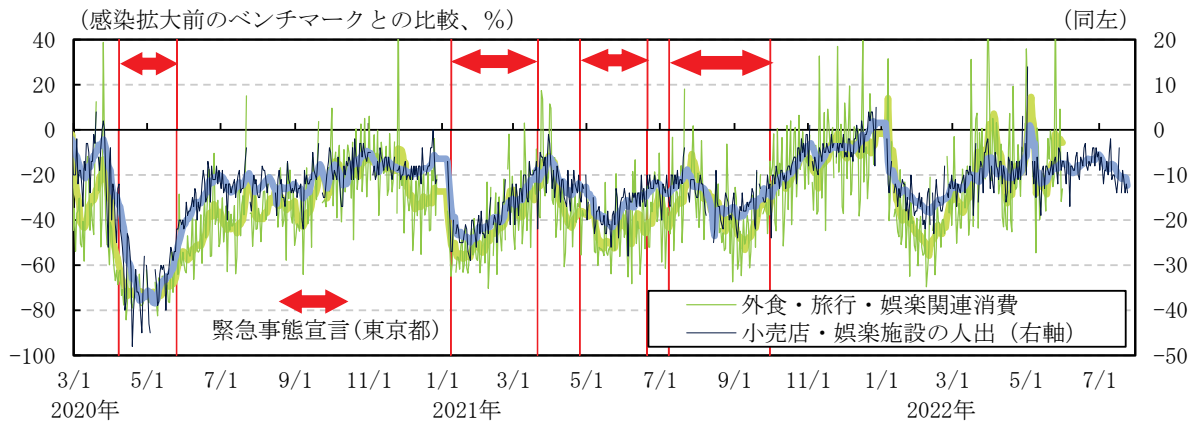
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベースの宿泊者数のデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESAS、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

図表 8-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 7/24）と外食・旅行・娯楽関連消費

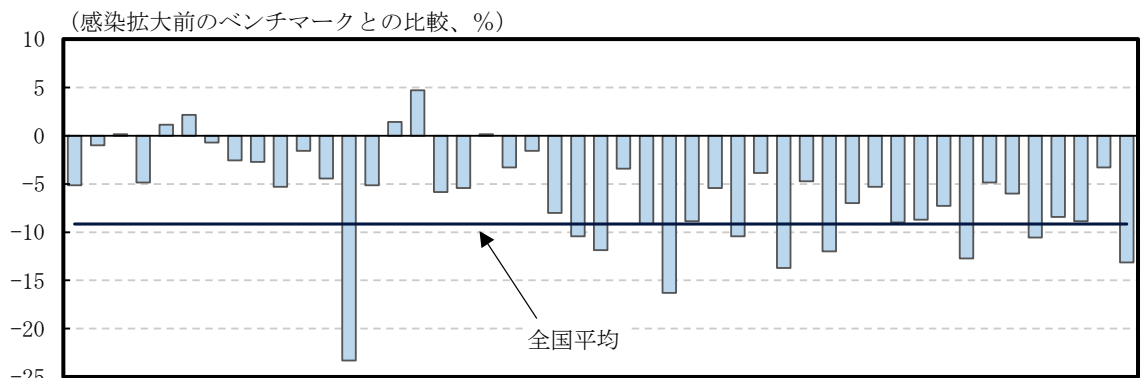


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 8-2：小売店・娯楽施設の人出（7/18～7/24 平均、都道府県別）

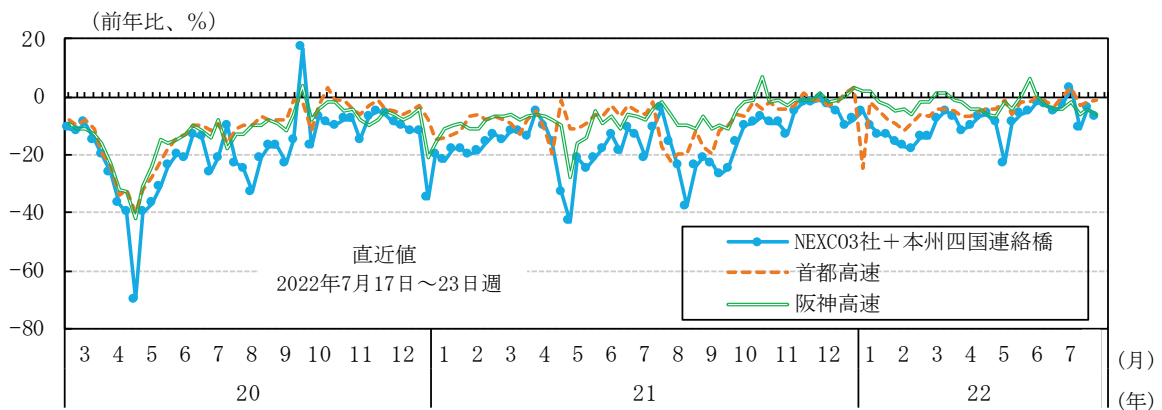


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫長歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 9：高速道路交通量

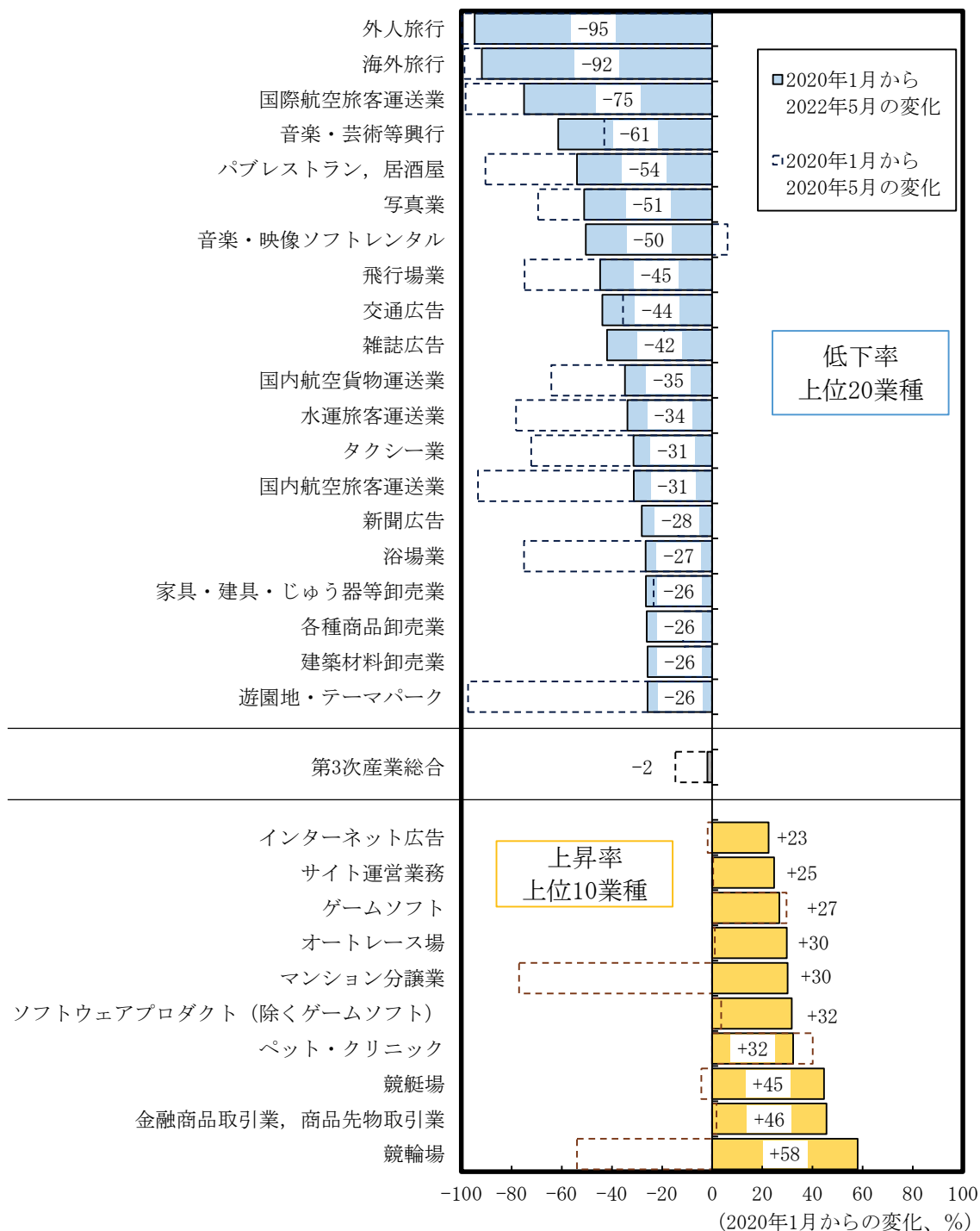


(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

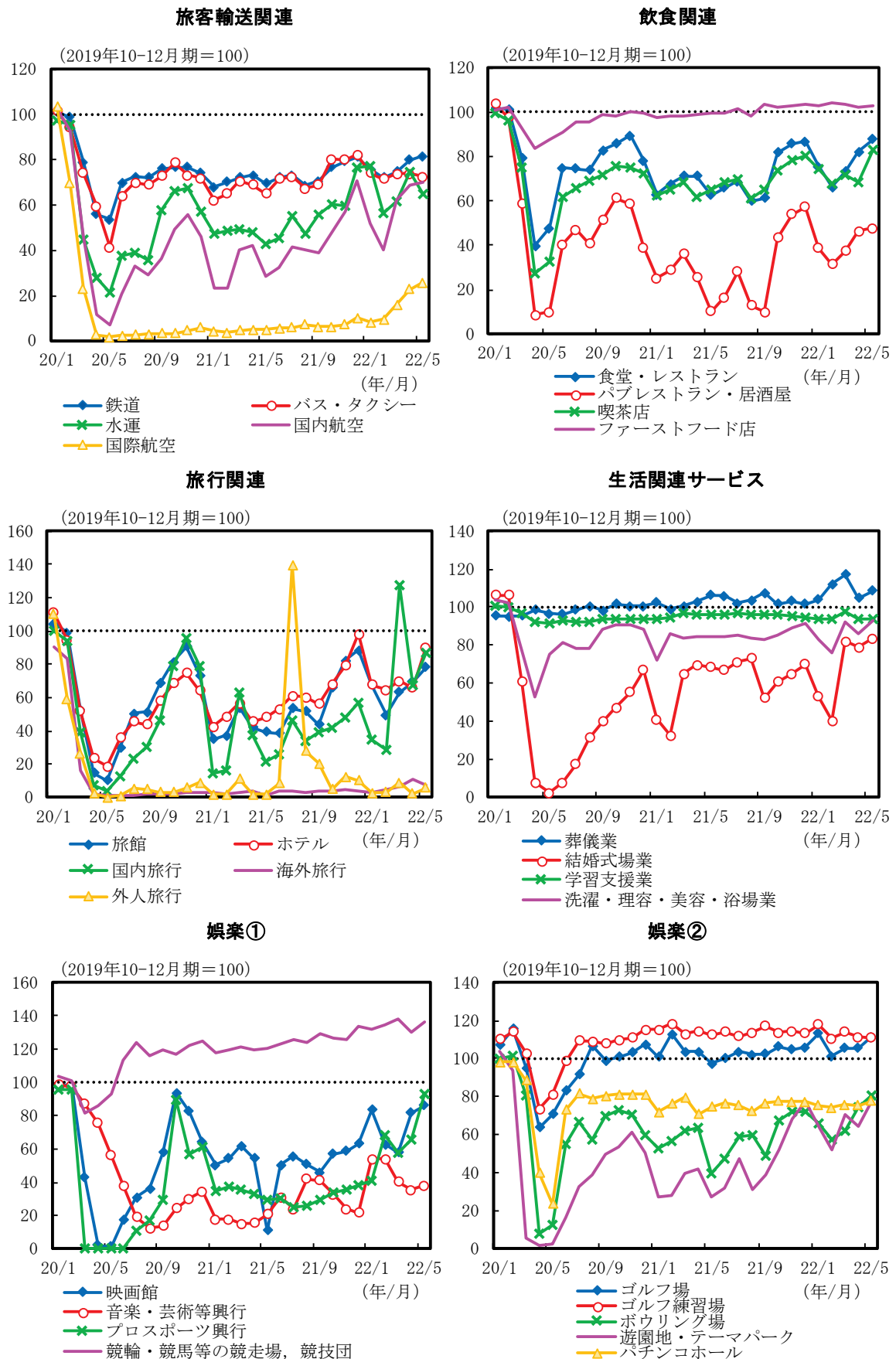
図表 10-1：第3次産業活動指数（2022年5月）



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2022年5月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 10-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成